


元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア！」

 国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Open *the* Door!

Vol.6



特集Ⅰ 妙高ジュニアアドベンチャー2011

森で生きる 15日間



**特集Ⅱ MYOKO活動プログラム紹介
アドベンチャーオリエンテーリング
&クラフト**

**指導者養成事業
リーダーシップ測定尺度の開発
職員お気に入りの場所紹介**

森で生きる

この夏出会える 新しい自分 15日間

心も身体も大きく成長し、集団活動において主体性が発揮される小学校5・6年生の子どもたちを「村づくり」を中心にした長期滞在型キャンプを展開し、「つくる」、「チャレンジする」、「祭りをを行う」等の活動を通して、「次代を担うリーダーの育成」に必要な力①「集団維持機能」、「課題達成機能」の育成を図りました。

また、得られた成果をもとに青少年のリーダー性を特定する要素（資質・能力）として絞り込み、子どもたちがそれらの力を発揮しやすい環境や特色あるプログラムを開発し、青少年教育の振興に寄与します。



プログラムイメージ

国立妙高青少年自然の家では、現代を生きる青少年に関わる課題の一つである「リーダー性の育成」について、重点テーマとして掲げ、平成21年度から3年間「次代を担うリーダーの育成」を目的として取り組んできました。

その具現策として、リーダー性の資質・能力としてとらえた①困難に自ら立ち向かおうとする力、②計画的に考え行動する力、③情報を収集し、創造力をもって課題を解決しようとする力、④役割を意識し、集団の規範を守る力、⑤集団内の人間関係を円滑にしようとする力、の5つの力の育成に重点をおいた長期間のチャレンジキャンプを行いました。平成21、22年度に「妙高ジュニアアドベンチャー2009」（佐渡海峡横断）、と「妙高ジュニアアドベンチャー2010」（信濃川367キロ源流下り）を行い、子どもたちがリーダー性を発揮できるプログラムを開発・編成し、実践しました。子どもたちは、登山やマウンテンバイク、Eポート、手作りいかだなど、厳しい条件の中にも主体的に活動を行い、リーダー性を発揮すると共に、自信を身に付け、大きな変容と成長を遂げました。保護者からは、「その後、学校に戻ってからも、子どもが、クラスや部活で進んで考え行動することができるようになった。」という声も多く寄せられました。



7月24日～7月26日

第1ステージ「夢づくり」

仲間や森との出会いと森小屋づくり！これから始まるMJA村の夢を大きく膨らませよう！

第1ステージは森小屋を建てるとともに、村の広場を開拓しながらどんな村をつくりたいか夢を膨らませることをメインとした「夢づくり」のためのステージとしました。子どもたちを3つの班（男女混合・各班5～7人）に編成し、グループ内のコミュニケーションや協働作業が自然に促されるよう配慮しました。また、規則正しい生活のリズムづくりを目指し、毎朝5時起床としました。食事も15日間は班ごとの自炊による食事作りを基本としました。

7月27日～8月1日

第2ステージ「村づくり」

世界で一つ！みんなの夢MJA村を自分たちの手で完成させよう！

6日間の第2ステージは、自分たちで開拓した村に住み、自分たちにとって楽しく、よりよい村とは何かを考え、具現化できるようにしました。

住む場所が確保された後、炊事をするために必要な「かまど」作りやより快適に食事をするためのテーブルやイスの準備を行い、そのために必要な木材や竹ブロックなどの材料も多く準備することが必要と考えました。

生活を快適にするためのアイテムは、子どもたちのアイデアで「看板」「薪置き場」「ブランコ」「トイレ」「広場」「ドラム缶風呂」「足湯」などが作られることを想定し、最大限に具現化できるように、あらかじめ十分な道具をそろえておくこととしました。



それらの成果を考察し、リーダー性を育むためには、子どもたちが主体的に考え、じっくりと活動できる場や時間などを十分に確保することが重要であることが明らかになりました。

そこで、3年間の計画事業の最終となる今年には、「失敗しても何度もやり直しができること。」「言われてやるのではなく、自ら必要を感じ、主体的に活動できること。」などを保障することをテーマとして掲げ、活動を編成しました。そのねらいを達成するため、生活の場を自らの手で一から開拓することのできる当所の敷地内での滞在型チャレンジキャンプが最も適していると考え、「妙高ジュニアアドベンチャー2011」（村づくり）を企画し、長期滞在型チャレンジキャンプを実施しました。

活動の特徴

14泊15日の活動プログラムを活動内容のねらいや特性から1～4ステージに分け、それぞれのステージ毎のねらいを明確にして、以下のような内容で活動に取り組みました。



第3ステージ

「アクティブ チャレンジ」

「日本海を目指して35キロを歩く」ビッグチャレンジを通して、新しい自分や仲間よさを発見しよう！



MJA村が完成し、さらに子どもたちのリーダー性を発揮させるためのステップアップを目指し、「これまで、作り上げてきた村を離れ、全員でビッグチャレンジをしてこれまでと違った新しい自分に出会おう」と、子どもたちに投げかけることとしました。子どもたちには、どんなチャレンジにしたらいいのかという話し合いを大切に、主体的なチャレンジになるよう配慮し、「MJA村から日本海までの約35キロを歩く」ことを前提に、「アクティブチャレンジ」と銘打ちました。

早朝に出発し、ひたすら歩くことは、これまでの自分の頑張りや思いこしたり、疲れている仲間を思いやりたりする力が育つと考えました。全員で日本海まで歩き切り、夕日を見ながら一日の振り返りをする中で、チャレンジすることの意味や自他共に新たな気付きを促し、新しい自分や仲間と出会うことができるよう、スタッフの声かけや、班のメンバー同士の励まし合いが深まるような時間設定を行いました。



は、これまでの自分の頑張りや思いこしたり、疲れている仲間を思いやりたりする力が育つと考えました。全員で日本海まで歩き切り、夕日を見ながら一日の振り返りをする中で、チャレンジすることの意味や自他共に新たな気付きを促し、新しい自分や仲間と出会うことができるよう、スタッフの声かけや、班のメンバー同士の励まし合いが深まるような時間設定を行いました。

8月4日～8月7日

第4ステージ

「村祭り・ふりかえり」

MJA村の活動のフィナーレ「村祭り」をみんなの力で成功させよう！



これまで多くのチャレンジをしてきた子どもたちが、村で過ごす最後の日に、「MJA村祭り」を開催することとしました。これまでの村づくりで育まれた力を生かして、自分たちが楽しめる祭りは何かを考え、発想をもとに内容の計画を立て、実行することを目的としました。班で役割分担して料理を作ったり、出し物を練習したりすることに、MJA村づくりを通して成長した自分や仲間、家族や周囲への感謝の心や絆が深まることを期待し、この村祭りを通して妙高ジュニアアドベンチャーの15日間の総決算となるようにしたいと考えました。

評価

次代を担うリーダーの育成を掲げて取り組んできた「妙高ジュニアアドベンチャー2011」では、以下の方法で子どもたちの評価を総合的に行いました。

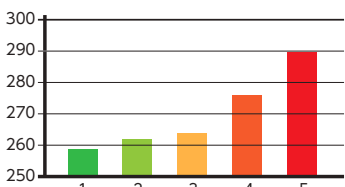
2011では、子どもたちを対象に1～4ステージ毎に「リーダーシップ測定尺度質問紙」を用いたアンケート

トを行いました。また、毎日のふりかえりで書いた作文やスタッフの参与観察で記録された子どもたちの姿から、15日間を通して育まれた「リーダー性5つの力」について考察しました。

- グラフの見方 縦軸は「リーダーシップ測定尺度質問紙項目の合計点を累計した数値である。横軸はアンケートを実施した時期を表す。
1...ステージ前「出会い」
2...1ステージ「村づくり」後
3...2ステージ「村づくり」後
4...3ステージ「アクティブチャレンジ」後
5...4ステージ「村祭り」後

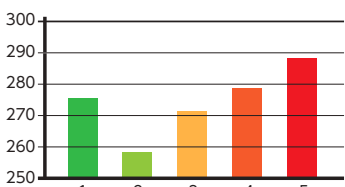
リーダーシップ測定尺度の結果から考察する「リーダー性5つの力」について

困難に自ら立ち向かおうとする力



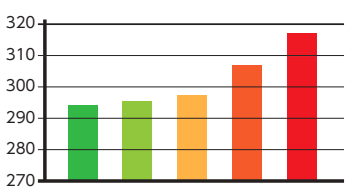
活動日数を経て得られる経験の蓄積が、この力を順調に育てていたと考えられる(1～5)。滞在型の活動においては、繰り返し挑戦できる場や日数を確保する(スパイラルの保障)ことで、失敗してもその体験を生かして再度チャレンジし、成功体験を得ることができた。このようなサイクルの結果として、この困難に自ら立ち向かおうとする力が、確実に育てられていったと考える。本文中の()内数字は、グラフの番号を表す。以下同様。

計画的に考え行動する力



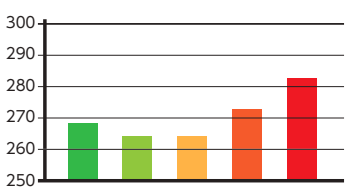
村づくり後の数値が大きく伸び、その背景には、村づくりの協働作業を毎日繰り返して行うことで、時間の感覚が自然に身に付くと共に、自分はどの行動をしていくべきなのか考え、行動できるようになっていったと考えられる(3～5)。マインドマップの手法を用いて計画を立てたり、それを基にグループ内で意思疎通を図ったりすることができるようになり、そのことが、この力を育てるための大きな助けとなった。

情報を収集し、創造力をもって課題を解決しようとする力



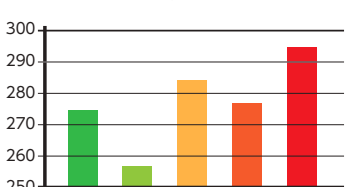
15日間の活動全般を通して常に情報を集めたり、創造力をもって課題を解決したりしないと達成されない課題を適切に与えることができたと考えられる。特に最後の村祭りは、計画立案から内容の話し合い、発表練習など、活動の環境を整えていくことが、この力を十分発揮させる場の提供につながると考えられる(5)。

役割を意識し、集団の規範を守る力



15日間で19回行った野外炊事においては、①はじめは得意なもの、②繰り返してスキルを高める、③違う種類の役割に挑戦する、という役割意識と行動の向上が見られた。アクティブチャレンジと村祭りのステージでは、メニューも自分たちで考えるところから関わらせ、必要感による役割意識が生じた。このことが、この力を向上させたと考えられる(4～5)。

集団内の人間関係を円滑にしようとする力



アクティブチャレンジでは個人の挑戦要素が高く、人間関係を円滑にしようとする力としての要因は低い値を示した(4)。最後の村祭りを成功させるために全体・グループでの話し合いや作業が積極的になり、集団内の人間関係を円滑にしようとする力が大きく伸びた(5)。

「妙高ジュニアアドベンチャー2011」をふりかえって

子どもたちは、15日間の「村づくり」という体験活動を通して、大きな成長を見せてくれました。その中の一人である参加した小学校5年生の女の子の事例を紹介します。

活動全般において意欲的に取り組んでいた5年生の彼女。自らの意見を述べたり、率先して作業を行ったりしていました。しっかりと自分の意見を

もって活動に臨んでいたもので、自分の考えと違う行動をしているメンバーや出された反対意見に対して、自分の主張を変えることがありませんでした。そのことがかえって班の雰囲気やギクシャクさせていた面も見られました。しかし彼女が、15日間のMJA2011を終えた時、自分の課題である「友達を助ける時、自分の課題である「友達を助ける」事を意識して行動できるようになったのです。その背景には、毎日のプログラム日程の中に、毎日必ず班のメンバーが活動に向けて自分の気持ちを話し、班のメンバーの意識の共有を促す時間が十分確保されていたからと考えます。

活動における意見の衝突が起こったときなどの話し合いを重ねながら、彼女は絶対に自分の意見を曲げないという意識から、メンバーの話を聞いて「最善の方法は何か？」と考えられるようになった姿がありました。自分の意見に固執するのではなく、広い視野での思考が広がっていったことが考えられます。このことは、協働作業によって村づくりを行い、その成果として日々進化する村の成長と共に、参加者自身である彼女自身も大きく成長してきたということに他なりません。



幼児が夢中になる遊

幼児期にふさわしい 自然体験活動の プログラム開発 2年次の報告

子ども達がのびのびと思い切り遊べる豊かな自然環境のある「妙高青少年自然の家」、そのフィールドを利用して園の子ども達はいろいろな自然体験を重ねています。今年度もあちこちで夢中になって遊ぶ姿が見られました。

去年は、子ども達が活動しているところを観察して、エピソードの分析・考察がありました。その評価を基に、今年度は「指導計画に位置付けされた活動を」ということで、自然の家職員と園とで企画から一緒に取り組み、運営・指導援助を行いました。

事前に双方で情報を共有したことで今までの活動プログラムに広がりが出て、心動かされる体験ができたと思われまます。

また、四季を通じ継続して施設のフィールドを利用したことも、場所や時間が保障されている安心感があり、主体的に遊びこむことができました。さらに雨の時にも野外に出るなど、自然に合わせた経験をさせた園もあり、ここにも学びがあったに違いありません。

今後は、自然の家のフィールドで培った感覚や感性を日々の活動のなかで生かし、新しいことにチャレンジする勇気や未知のものへの好奇心を育てていきたいです。



妙高市教育委員会
園指導主事 宮田友子



事業担当 室井 修一

※本研究内容は別紙報告書を作成し、ホームページに掲載しています。



幼児の諸感覚

「雪がいっぱいだよ！」
「雪がふわふわで進めないよ！冷たい！」

↓
深雪の中で、全身を使って遊びます。雪の重力感や柔らかさ、冷たさなど諸感覚を通して感じていきます。どっふりと雪と関わり雪の特質や体の使い方を学びます。

幼児の挑戦

「よし 登ってみよう！」
「見て ここまで登れたよ！」

↓
自ら挑戦し、登りきったときの笑顔は自信に満ち溢れています。自信を重ねる挑戦をしていきます。揺るがない自己効力感を育みます。

び～春夏秋冬～



幼児期にふさわしい 自然体験活動

たくさんの保育園・幼稚園にご利用いただきました。

ありがとうございます。

平成 23 年度利用
保育園・幼稚園（順不同）

- たちばな・
たちばな春日幼稚園
- ふきのとう保育園・
坂戸はちの巣保育園・
第二はちの巣保育園
- 旭が丘幼稚園
- 学校法人明照学園明照幼稚園
- 社会福祉法人ときわ保育園
- 上越教育大学附属幼稚園
- 上越市立柿崎第一保育園
- 聖公会紅葉幼稚園
- 木更津むつみ保育園
- 門前にこここ保育園
- マリア愛児園
- 妙高市立妙高保育園
- 妙高市立矢代保育園
- 妙高市立斐太北保育園
- 妙高市立姫川原保育園
- 妙高市立ひまわり保育園
- 妙高市立新井北幼稚園
- 妙高市立新井南幼稚園
- 妙高市立水上保育園
- 妙高市立第一保育園
- 妙高市立第二保育園
- 妙高市立斐太南保育園
- 妙高市立和田保育園

延べ 1,695 名の幼児が夢中に遊び（学び）ました。



幼児の気づき

「なぜ、石の下にゲジゲジがいるの？」
「この草なあに？」

↓
探究心が豊かな幼児は、いろいろなことに興味を持ちます。自分で確認し理解することで、更なる関心を広げていきます。幼児期の大切な学びです。

幼児の思いやり

「がんばって 助けてあげるよ！」
「ここつかんで！」

↓
幼児同士が声をかけ合い、手を差し出し仲間を助けた。困難な場面（小さな滝を登る）が幼児の思いやりの心を育みました。多様な環境で幼児は学びました。



幼児期に大切なこと

- 『本気』×『楽しむ』
=『夢中になる』
- 『不思議』×『知りたい』
=『好奇心』
- 『できるかな?』×『できた!』
=『自信』

「鼻水をたらしても」
「服がよごれても」
「靴が濡れても」
「爪が真っ黒でも」
「顔が泥だらけでも」
「切り傷をつくっても」
「暗くなるまで遊んでも」
「母は許してくれたな・・・」
私の幼少時代の思い出です。保育士でもあった母は、これらの行為を認めてくれていました。成人して聞いたとき「そのときか（幼少期）出来ないからね」と話していました。
現代の子ども達にどれだけ当てはまるでしょうか。豊かな社会ですが、幼児期に何が大切なのかしっかりと考えなければなりません。
幼児期は人生の基礎を育むとても重要な時期です。多様な体験を通して、子ども達は自分の揺るがない力を身につけていくのです。
テレビで見たものではありません。
ゲームで勝ったことではありません。
今、目の前にある自然や仲間が子どもの力になるのです。感情がぶつかり、認められ「喜ぶ」一喜一憂します。諸感覚を通して物事を理解し納得をしていきます。
自分が主体的に関わると、他者との関わりを通して自己の存在を意識します。
妙高青少年自然の家では、幼児期にふさわしい自然体験活動を研究し、プログラムを提案しています。ぜひ足を運んでください。子ども達の「豊かな体験」を一緒に深め広げていきましょう。

はじめの わんぱくキャンプ めざせ 冒険王

10才までの自然体験を
「妙高」ではじめよう！

小さな子どもの時期に自然とどっぷりとかかり、思いっきり遊ぶ。木の枝や地面の土、源流の水にまみれながら、やりたいこと、できることをたくさん探していく。子どもは遊びの中で、自然に主体的にかかわります。自然が、子どもの諸感覚を刺激し、健やかな心と体を育てます。自然に親しむことはもちろん、自然の厳しさも感じる子どもになってほしい。そんな思いで、このキャンプを構想しました。

ちょっと冒険、
ちよっぴり大人！

わんぱくキャンプでは、子どもにとっての「初めて！」がいっぱい。ハンモックに包まれて揺られたり、木の枝をたくさん集めて秘密基地を作ったりしました。そして、包丁でキャベツを刻み、ホットドッグを作り、自分で火をつけて焼いて食べました。木に登ってターザン遊び。川の中をさぶさぶ歩いて探検。落ち葉を投げ上げ、落ち葉シャワー。

子どもたちの活動は、遊びの形をとって目の前にあるものを使い、どんどん進化していきます。やってみて楽しいことは、ずっとやり続ける。一人で楽しいことは、仲間を呼び集め、大勢で始める。子どもたちは、自然とかわりながら、少しずつできることを増やし、進化していきます。

わんぱくキャンプ プログラム

夏 8月26日(金)~28日(日)

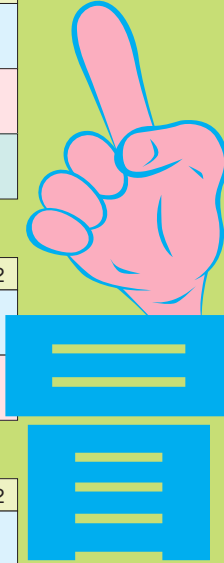
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目				式	アイス フレイク	昼食	森の探検			マイ スプーン 作り	夕食		ナイト ハイク 星座	入浴	就寝		
2日目	起床	野外炊事 カートドック			源流探検	昼食		野外炊事	ダッチオープン			キャンプ ファイヤー	入浴	就寝			
3日目	起床	朝食		いもほり 体験	振り 返り	式											

秋 11月5日(土)~6日(日)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目					式	アイス フレイク	昼食	森遊び・おやつ作り				夕食	キャン セル セレモニー	入浴	就寝		
2日目	起床	朝食			クラブ祭り	式											

冬 2月4日(土)~5日(日)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目					式	アイス フレイク	昼食	雪上活動・雪灯ろう そり・スノーシュー	移動		夕食	雪灯ろう 点火	昔遊び	就寝			
2日目	起床	朝食			雪上運動会 バンパレース・ そり	式											



ほくたち、わたしたち、わんぱく仲間！



源流じゃぶじゃぶ探検だ！



カートドッグうめ~



ほくらの秘密基地できたあ~



火が上手にまわるかな



包丁とんとん慎重に！



ロープを渡って、向こうの木まで



キャンプファイヤーで猛獣狩り



ぬーな ジオまる
糸魚川ジオパーク
マスコットキャラクター

好き!すき!ジオパーク! 9月23日(金)~25日(日)

県内各地と東京都、富山県から総勢 名 (小学校4~6年生) の岩石好き、化石好きな子どもが集まりました。どの子も「世界ジオパークに行ってみよう!」、「大断層って何か知りたい!」、「ヒスイや化石を見つけた!」とやる気満々です。

子どもたちは、実際に糸魚川 静岡構造線で断層粘土に触れたり、天然記念物の小滝川ヒスイ峡でヒスイの原石を観察したりしました。また、化石やメノウ、色とりどりの岩石をひろい、世界に一つだけの岩石標本を作りました。自分だけの宝物を手に入れ、大満足の様子でした。



小滝川ヒスイ峡

活動プログラム

時間帯	5時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
9/23(金)	晴天 荒天								受付	開会式	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動
9/24(土)	晴天 荒天	起床	荷物整理 清掃	朝のついで 朝食・清掃	出発	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動
9/25(日)	晴天 荒天	起床	荷物整理 清掃	朝のついで 朝食・清掃	出発	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動



浜徳合で砂泥互層観察

今日からわたしも糸魚川世界ジオパークのちびっ子博士!

竹之内耕先生(フオッサマガナミュージアム学芸員)から分かりやすく教えていただきました。子どもは、先生の話に興味津々。おかげで、すっかり「ジオパーク博士」の気分。最終日に書いた、ジオパーク新聞に「初めは、糸魚川ジオパークってどういう所なんだらうって思っていたけど、たっくさんの

人のお話を聞いたり、体験や見学をしたりしたおかげで、今では、答えられるくらいになりました。」と自らの成長を書いた子どもいました。



青海海岸で岩石ひろい



自分でとった写真をレイアウトして!



ジオパーク新聞



色とりどりの岩石

妙高ひまわりキャンプ

「妙高ひまわりキャンプとは」

「妙高ひまわりキャンプ」は、地元施設との連携の一環で実施した2泊3日(幼児・小学生は1泊2日)のキャンプです。実施にあたり、運営委員会を立ち上げ、上越教育大学、上越児童相談所の支援を受けています。

このキャンプのねらいは、子どもたちが、妙高の豊かな自然の中で、様々な人と触れあい、協力していくことの楽しさを学び、気持ちを取りフレッシュすること、まわりには、頼れる大人、仲間がいることを肌で

感じ取り、これからの自立へのエネルギーを培うことの2つです。

「子どもたちの様子」

野外炊事では、班長が中心となって材料を切ったり、道具を準備したりと、事前に分担していた役割をそれぞれが行っていました。できた各班の料理をみんなで試食しました。お互いに料理のよい点を褒め合い、各テーブルに笑顔があふれていました。

キャンプセルモニーでは、点火の儀式や歌の準備など、短い時間の打合せの中で、分担を決めました。リハーサルで動きを確認し、本番では、それぞれの役割を果たし、レクや歌の時間には自分から楽しもうとする意欲的な様子が見られました。

クラフトでは、周辺から採集してきた自然物を使って、自分だけのオリジナルTシャツを作りました。班ごとにアイデアを出しながら、楽しそうにつくり、最後には、できた作品を自慢げにみんなに紹介していました。



活動プログラム

時間帯	5時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
8/17(水)	晴天 荒天								開会式	昼食	①北沢川散策	②ひっくりナイフ	入浴	夕食	バスで移動	バスで移動	入浴	夕食	就寝	
8/18(木)	晴天 荒天	起床	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食
8/19(金)	晴天 荒天	起床	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食	朝のついで 朝食

子どもの感想から

・今回は自分たちで活動やコースなどを選ぶことができたので、自分が行きたいコースに行けて良かった。前回と同じ源流探検や野外炊事もあったけど、違う内容だったので、新しい発見ができた。一省略— みんなの意見を聞いてまとめるのは大変だったけど、とても良い経験になったと思う。

・最初は、少しやる気がない人が多かった。でも、活動していくうちに、どんどん楽しくなってきて最高の3日間になったと思う。今回はほとんど自分たちの力でやっていたので、心から楽しむことができた。一省略— 来年も同じように自分達である程度企画・運営すればよいと思う。また、冬のキャンプもとても楽しみ。



活動プログラム

アウトドア! アドベンチャーオリエンテーリング

自然の家オリエンテーリングコースを使いながら、数ヶ所にチェックポイントを設定し、イニシアティブゲームや環境学習ゲームを行うプログラムです。仲間と協力しながら課題を解決していくことで、人間関係づくりにもつながります。

チェックポイントでの課題には、人間関係を深めるためのゲーム(「モニタージュ」「ゴラインナップ」「みんなのつかれ」)「クモの巣」「カモフラージュ」や、自然をより深く観察するゲーム(「森のつながり探し」「森のピンゴ」「森のしりとり」)などがあります。

自然の家アドベンチャーオリエンテーリング

■ 「モニタージュ」

ここでは、指導員、リーダーから課題が出される。さあ、みんなでチャレンジしよう!

料金
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 1名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 2名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 3名

これは誰の顔でしょう?



自然の家アドベンチャーオリエンテーリング

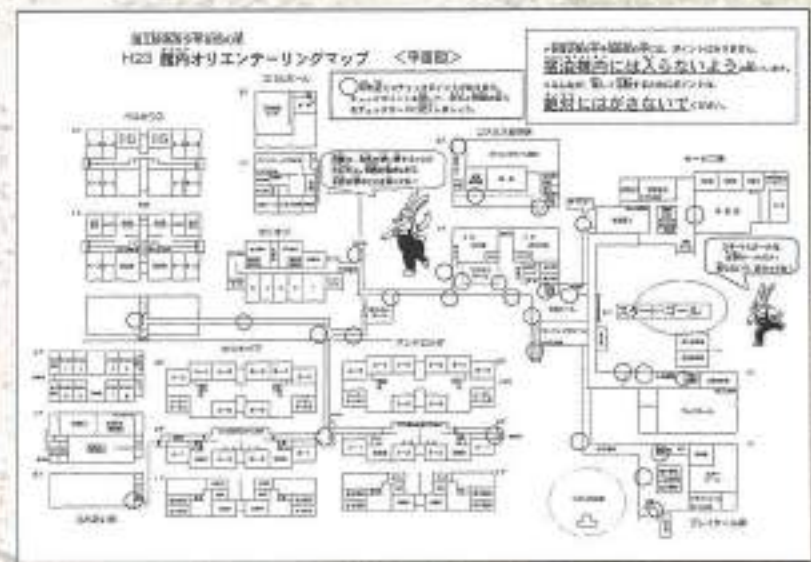
■ 「森のピンゴ」

森の中を歩いて、ピンゴマスの中の課題に答えるものを探みつめてください。一歩一歩の歩みは、ピンゴマスです。お楽しみポイントもたくさんあります。

料金
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 1名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 2名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 3名

「きのこ」とかいてあったら、きのこを探してきましょう。

アウトドア! 館内オリエンテーリング



自然の家館内の地図にかかれた30ヶ所のポイントを探して、そこにかかっているクイズに挑戦するプログラムです。

館内のいたる所にポイントが隠れていますので、よく目を凝らしてくださいね。また、何よりの利点は、通年で活動でき、さらに悪天候で屋外のプログラムが実施できないときに有効なことです。

自然の家を初めて利用されるかたに行くと、自然の家の様子を知ることができて便利です。

1〜2時間でできますよ。

自然の家アドベンチャーオリエンテーリング

ポイント

料金
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 1名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 2名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 3名

H22 館内オリエンテーリング チェックカード

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

ボーナスポイント集積の緑色

アウトドア! フォト推理オリエンテーリング

自然の家周辺マップにある記号の場所から見られる景色を写真から見つけ、マップの記号をチェックカードに記入していくオリエンテーリングです。

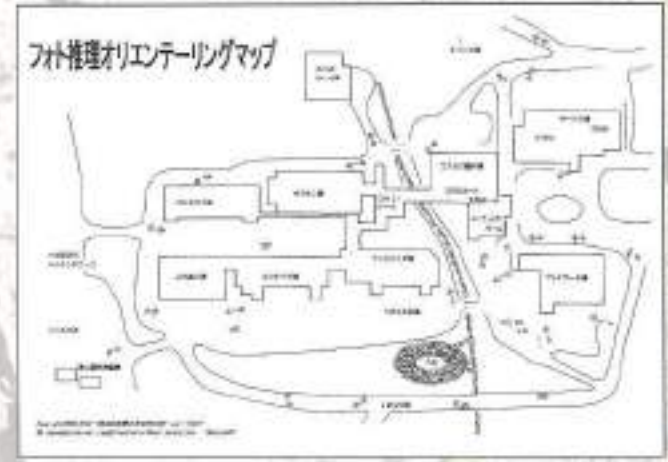
チェックカードを全部うめると、隠された文章が出てきますよ。

チェックカードに全ての解答を記入したら、ゴールへ向かいましょう。

1〜2時間程度で自然の家の施設周辺を探検するのにちょうどよいプログラムです。



これらの写真の中から見つけます。



自然の家アドベンチャーオリエンテーリング

■ フォト推理オリエンテーリング

チェックカード

自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 1名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 2名
 自然の家アドベンチャーオリエンテーリング 3名

アウトドア! 館内フォトピンゴ

自然の家館内で、写真によって示された25ヶ所のポイントを見出し、近くにある記号を写しながら、ピンゴをめざすプログラムです。

順位は、「ピンゴの数」の合計点で決定します。

ピンゴの数をあらかじめ伝えておき、ゴールするまでにかかった時間で競ってもおもしろいですよ。

問題カードの写真の中に、ボーナスを設定するおもしろいですよ。

指導者側でグループに内緒で時間を設定しておき、ゴール後にその設定時間に近いグループにボーナス点を与えてもおもしろいかも...

自然の家アドベンチャーオリエンテーリング

■ 館内フォトピンゴ

問題カード

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

記号の例です。チェックカードにかき写します。



自然の家アドベンチャーオリエンテーリング

■ 館内フォトピンゴ

チェックカード

○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○

カラマツくん

カラマツの木

木の実をくっつけたり

カラマツは年輪がとってもキレイ。磨けば磨くほど、スベスベのお肌になります。

ひもを通して、キーホルダーやストラップにも。

こんな形になるようにヤスリで削りました。

peesなどで飾るとカワイイです。

怪力でねじ曲げたわけではありません。

ウッドバーニングで字や絵も書けます。

クラフト特集

白樺の壁掛け

白樺の木

こんなふうにできますよ!

ほかにもこんなものができますよ!

白樺の木はとっても大きいので、詩を書いたり、絵を描いたり、いろいろなことができますよ☆

ヒモを付ければ素敵な壁掛けに! ビーズや木の実を使うときれい!

<透かし葉>
自然散策で集めた木の枝や葉っぱを使って、デザインしてみましょう!

<白樺のハガキ>
自然の家から発送できます。

小枝のモックくん

自然観察(ハイキングと兼ねるとよい)をしながら枝を集めます。※乾燥している枝が最適ですよ!

枝から小枝のでているところを見つけたらそこを鼻に見立てると顔のイメージがつかやすい!

① 枝の股を人に見立てて必要な部分をのこぎりで切ります。
※直径1cm~1.5cm、長さ5cm程度の枝が適当です。

② 目を貼る部分を彫刻刀で平らにし、動眼が付きやすいようにきずをつけ、口にする部分を彫刻刀でけずります。

顔のパーツの位置を少し変えるだけでも色々な表情が楽しめますよ!

アレンジ次第でオリジナリティがうんとアップ!!

あとは好きなように色をつけたり、表面全体にニスを塗ったり、ヒートンをつけてひもを通して出来上がりです☆

長〜い枝のモックくんもいいでしょ!

枝を人に見立てて切り取り、目をつけて出来上がるキーホルダーです☆自然の素材を生かした手軽にできるクラフトなのでいくつも作ることができます!

マイスプーン・マイフォーク

何気ない木の枝が...

大変身!!

ウッドバーニングペンで味わい深い作品に早変わり!

シンプルに素材の良さを生かし、ニスを塗って光沢を出すだけでも、大切にしたい作品になりますよ!

ペンを使って絵や文字を入れてみよう。

彫刻刀で文字を入れたりナイフで削ったり...

こだわりは無限大!

自分の思いを作品に込めよう!!

平成23年度 指導者養成事業

プログラム開発事業 心の冒険教育 指導者養成研修

君の笑顔が、みんなの心の笑顔になる。

5月27日(金)～29日(日)に実施

平成23年5月に心の冒険指導者養成研修が行われました。この事業は、児童生徒のコミュニケーション能力の向上に資する指導法について研修し、実際の教育現場で集団内のひとり一人の信頼と安心を構築することのできる指導者を育成します。また、妙高アドベンチャープログラムの指導者を育成するための事業でもあります。

コースIは1泊2日で「グループの力を生かす教育手法コース」です。「妙高アドベンチャープログラム」を用いた人間関係づくりの手法を習得します。

コースIIは、2泊3日で「妙高アドベンチャープログラム」のプログラム指導のために必要な知識や指導技術の習得を図ります。

今年も21名の参加者の皆さんが、真剣



な表情で実技や理論について学んでいました。講師は、プロジェクトアドベンチャージャパンから2名の先生をお迎えして、専門的な内容をわかりやすく楽しく教えていただきました。

妙高アドベンチャープログラムは当施設でもとても人気の高い仲間づくりプログラムです。ここで学ばれた参加者の皆さんには、この研修を生かしてご活躍いただけることを心から期待しています。

MYOKOボランティア養成所

5月21日(土)～22日(日)に実施

(兼・文部科学省自然体験活動指導者養成事業 補助指導者養成研修)

この施設を支える大きな力。それは、ボランティアのみなさんの力です。

今年で5回目を迎えたこの事業は、ボランティア活動の意義や青少年教育について学んだり、応急手当の方法やリスクマネジメントについての実践をしたりと、内容の濃い1泊2日となりました。

今回は、46名(大学生44名、社会人1名、教員1名)にご参加いただき、そのうち、28名が法人ボランティアとして新規登録、12名が実際にボランティアとして活躍しました。

この「ボランティア養成所」に参加し、申請すると、「法人ボランティア」として登録することができます。「法人ボランティア」は、全国にある28か所の国立青少年教育施設で行われている各事業で



運営や指導など、多様なボランティア活動を行うことができます。

「今は、大学から近い妙高でボランティアしたいけど、夏休みは実家の近くの立山でボランティアしてみたいなあ。」という場合でも、「法人ボランティア」として登録すれば、どこの国立施設でも活動することができます。

実際に、学生ボランティアの中には、妙高だけでなく立山や能登、信州高遠などさまざまな国立施設で活躍している人もいます。

法人ボランティアへの登録は、15歳以上(中学生を除く)で青少年教育に関心のある方ならどなたでもできます。ぜひ、元気いっぱい感動いっぱい妙高で新しい一歩を踏み出してみませんか。

妙高ネイチャープログラム 指導者養成研修会

7月1日(金)～3日(日)に実施

この事業は、環境教育等の講義・演習や妙高ネイチャープログラムの体験を通して、環境教育の指導者として必要な資質や指導力の習得を目指しています。

講義の「学校現場における環境教育のあり方」では、上越教育大学特任准教授・渡辺啓子先生から学校現場の現状を具体的な実践例を交えてわかりやすく説明していただきました。実習では、自然体験の人気プログラムの源流探検、藤巻山探検(森のダム)を中心に実施しました。「川と生き物とのつながり」「森のダム」「川と森とのかかわり」などを題材に参加者と意見交換しながら取り組みました。その他に、周辺環境の理解という視点から、妙高火山、野鳥観察、星空観察の実習も加えられました。最後に研修のまとめとして、



「プログラム立案」の演習を行いました。実際に実施した学校の状況調査票を用いて、源流探検のプログラムを立案しました。それぞれの立場から、様々な視点でプログラム内容の検討が行われました。また、活動中はスキルアップで参加した指導員から、子どもたちへの対応や説明内容など具体的な助言があり、より質が高いものとなりました。

研修後の受講者からは、「自然にふれて何かを感じ、気づきを広げることが人として大切なことだと思いました。」「ネイチャープログラムを体験してみようと思ってきましたが、体験だけではないことを考えさせられました。多くの学びがありました。」「という感想がよせられました。この研修を通して学んでいたことが、「自然体験の楽しさ」として、子どもたちに伝わればと願うばかりです。



自然体験活動指導者養成事業 「小学校長期自然体験活動指導者養成研修」

9月17日(土)～19日(月)に実施

この事業は、「小学校の1週間程度の自然体験活動」において教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するために、プログラム計画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子把握と助言、事業評価の助言などを行う指導者を養成することを目的として実施されました。参加者は青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心があり、かつ小学校の長期自然体験活動の全体指導者として活動・協力する意志のある18歳以上の方々です。今回は23名の方にご参加いただきました。

妙高では、自然体験活動をプログラムする上で大切な企画力を大切に、プログラム企画立案の時間を多く設定しています。また、自然体験の技術や指導法も毎年同じではなく新たなプログラムを取り入れています。



リーダーシップ測定尺度

の開発



これがリーダーシップ5つの力です。

国立妙高青少年自然の家では、上越教育大学准教授大前敦巳氏の協力の下、青少年のリーダー性を特定する要素（資質・能力）としてリーダーシップ5つの力を絞り込みました。



なぜ、今、子どものリーダーシップが重要なのか。

小学校や青少年教育団体等の活動において、教師や指導者は、子どもがそれぞれの力を十分に発揮して、生き生きと活動してくれることを願っています。とりわけ小学校の高学年では、様々な場面でリーダーシップを発揮し活動することを期待されています。しかし、これまで、小学校高学年におけるリーダー

シップ能力を客観的に捉える手法は明らかにされていませんでした。これを受け、国立妙高青少年自然の家では、青少年の学童期（小学校高学年）に求められるリーダーシップの資質・能力を明らかにし、リーダーシップ能力を測定する尺度を開発し、一般化する研究を行いました。

少年期におけるリーダーシップに関するアンケート調査

実施日 月 日

小学校 年 組 番 氏名:

※これはテストではありません。ありのままに答えてください。	とてもよく当てはまる	当てはまる	どちらでもない	当てはまらない	まったく当てはまらない
(1) 人が嫌がることも自分から進んで取り組むことができる。	5	4	3	2	1
(2) すずんでお手伝いや勉強をすることができる。	5	4	3	2	1
(3) 危ないことを予測して避けることができる。	5	4	3	2	1
(4) その場の状況にあわせて考えることができる。	5	4	3	2	1
(5) 決めた時間にあわせて行動することができる。	5	4	3	2	1
(6) 先のことを考えて行動することができる。	5	4	3	2	1
(7) 内容を考えて話すことができる。	5	4	3	2	1
(8) 反省したことを次の行動や活動に生かしている。	5	4	3	2	1
(9) 物事をいろいろ方向から捉えることができる。	5	4	3	2	1

これがリーダーシップアンケート用紙です。

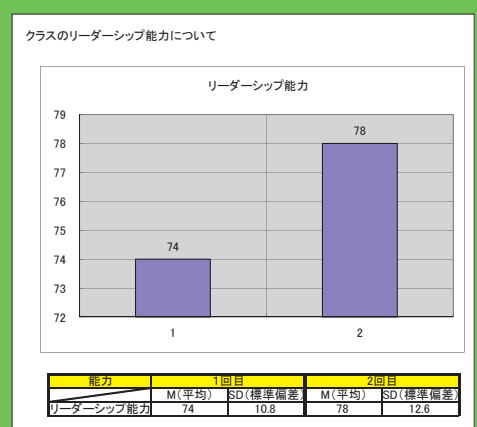
実施時期や実施期間、実施回数は特に決まっています。各団体の測定したいときに測定することができます。通常は行事の前後や学期始め・学期末などで実施し、数値を比較します。その結果から、子どもに育まれた力を考察し、活動内容を見直して次に生かします。

リーダーシップアンケート用紙や統計処理ソフト（「リーダーシップ測定尺度集計シート」／エクセル形式）は、国立妙高青少年自然の家ホームページからダウンロードして使うことができます。
<http://myoko.njye.go.jp/>



少年期（高学年）のリーダーシップ測定尺度は、利用者のニーズによって左記のような視点で評価することができます。

1. 全体の傾向として、ある期間の前後で推移を比較する。
2. 個人の傾向として、ある期間の前後で推移を比較する。
 - ① 上位指標（課題達成機能・集団維持機能）として考察する。
 - ② 中位指標（リーダーシップ5つの力）として考察する。



クラス（集団）全体の結果は、リーダーシップ5つの力を合計した得点の平均を表したものです。したがって、ある期間の前後で数値を比較することによってそのクラス（集団）の総合的なリーダーシップの変化や傾向を考察することができます。

分析結果の出力と考察

No.	指標	1回目	2回目	得点差
1	リーダーシップ能力	74	78	+3
2	課題達成機能	42	42	0
3	集団維持機能	30	27	-3
4	リーダーシップ能力	85	96	11
5	課題達成機能	52	58	6
6	集団維持機能	33	38	5

個人の結果は、リーダーシップ測定尺度の上位指標である「課題達成機能」と「集団維持機能」の数値を比較することができます。また、同中位指標である「リーダーシップ5つの力」の項目毎の数値を比較することによって子どもにつけたい力を具体的に考察することができます。

リーダーシップ測定尺度は、活動によって子ども達についた力を具体的に考察したり、子ども達にとってよりよい活動を編成するためのプログラムを見直したりするために開発されたツールです。指導者の皆様には、子ども達と活動を共有し様子をよく観察した上で、リーダーシップ測定尺度で得られた数値と合わせて、総合的に考察されることをお勧めします。

リーダーシップ5つの力を測定するためのリーダーシップ測定尺度とは...

測定尺度を開発する上で、もともとなる考え方は、リーダーシップ行動論の「PM理論」です。

「PM理論」とは、三隅（1978）が、リーダーシップの機能は「課題達成（Performance）機能」と「集団維持（Maintenance）機能」に分けられると提唱したものです。課題達成機能とは、集団全体で何らかの目標を定めて、その目標に向かって成員を動機づけ、目標を達成させる機能であり、集団維持機能とは、集団のメンバー同士のコミュニケーションを円滑にさせ、人間関係を良好にし、結束させる機能です。三隅は、P機能とM機能の組合せによって「PM型」・「P型」・「M型」を「PM型」・「P型」・「M型」に分類し、課題達成的ではあるが、集団維持的ではない「P型」・「PM型」を「課題達成的ではあるが、集団維持的ではない」として「PM型」に分類し、課題達成的ではない「M型」を「課題達成的ではない」として「M型」に分類しました。様々な企業組織における研究で、PM型のリーダーシップスタイルが最も効果的であることが、一貫して示されました。

『心理測定尺度集Ⅱ』堀洋道監修 吉田富二確編 サイエンス社より

学童期におけるリーダーシップ測定尺度の指標を作成するため、平成21年3月に新潟県上越地区の小中学校教諭から子ども達のリーダーシップ行動についてのインタビューをキーワードで回答してもらい、そのキーワードをKJ法にて分類しました。平成23年度までのアンケートについて項目の重回帰分析・分散分析等の見直しと改善により上位指標（2項目）・中位指標（5項目）・下位指標（10項目）に確定しました。

上位指標は、「課題達成（Performance）機能」と「集団維持（Maintenance）機能」に分けられます。

調査項目は、「リーダーシップアンケート用紙の調査項目」を表しています。

上位指標	中位指標	下位指標	調査項目
課題達成機能	1	1	意欲・自立性
	2	2	危機意識
	3	3	計画・判断
	4	4	観察・アクション
	5	5	情報収集
集団維持機能	6	6	想像力
	7	7	役割意識
	8	8	規範意識
	9	9	伝達・コミュニケーション
	10	10	ユーモア・明るさ

中位指標は、「リーダーシップ5つの力」を表しています。

下位指標は、「付いた力をさらに細分化した指標」となります。

職員お気に入りの場所紹介

みなさんにぜひ紹介したい職員お気に入りの場所を紹介いたします！
 妙高青少年自然の家での活動場所や施設について、職員からのおすすめコメントを
 すべて読んだら、きっと自然の家に行くのがもっと楽しくなること間違いなし！

スバルホール
 スバルホールでは星座観察の活動ができます。一階の学習室で星・星座の話聞いた後で、二階のデッキで星空を観察する。自然の家で、星座観察をしませんか？
 赤井 一繁

仲間づくりの森
 ここでは、仲間づくりのための体験プログラムを行います。課題を達成するための話し合いや協力する活動を通して、勇気を出して一歩前に踏み出し、新しい自分と出会う希望の場でもあります。
 二瓶 昭夫

キャンプ場
 キャンプセンターから一歩森の中に入ると8人用のテントが立ち並ぶエリアがあります。木立から太陽の日差しが漏れる光景は、まさに俗世間とは異なる別の世界です。
 長町 一郎

なかよしホール
 ここには、「子どもゆめ基金」で買った本をはじめ、たくさんの本が揃っています。自然の本、星の本、歴史の本、…なんと百科事典まで。ちょっとした図書館みたいです。
 風間 健一

野外炊事場
 自然の家には野外炊事棟が5つあります。調理メニューもたくさんあります。ここでの活動はただ料理を作るだけではなく、仲間との協力や道具を大切にすることを学ぶことができます。
 河野 健一

ダイニングホール銀河(食堂)
 自然の家の食堂は、バイキング方式でおかわり自由ですが、食べすぎには注意してくださいね^^ 妙高ならではのオリジナルメニューを味わえるのも楽しみのひとつです。
 望月 美羽

サービス棟裏の広場
 写真の中央から左上に延びる坂道は、キャンプセンターへと続きます。雪で隠れていますが、この広場ではMAも行われます。ここからの景色は、1年を通じて最高ですよ。
 岸本 政和

事務室
 受付をされる方、物品を借りに来る方、職員とお話をしに来る方など様々ないらっしゃいます。たくさんの方と出会える事務室は私のお気に入りの場所です。
 葉山 憲一

ペガサス広場
 朝のつどいやキャンプファイヤーを行ったり、冬は雪上運動会の会場になったり、子どもたちの元気な声が聞こえる場所です。ここから眺める景色もとてもキレイですよ。
 栗原 靖

第2ナラの木広場
 ナラの木広場は、自然の家の入り口から続く並木道を通るといつも心が癒されます。日によって変わる木の色や空の色、また木や葉の匂いが季節ごとに変わっていくのを見て、自然っていいなあと感じます。
 豊岡 佳苗

炊事場
 炭焼き広場

キャンプ場
 仲間づくりの森

自然の家の入り口から続く並木道
 ナラの木広場

スバルの丘
 夏はキャンプファイヤーと遊びの広場、冬はスキー広場となります。ここから眺める妙高山はとても凛々しく、カッコいいです。また、寝ころんで見上げる満天の星空は言葉で言いあらわせません。
 脇川 幸治

ペガサス広場
 つどいの広場

かえて広場
 MA広場

こくま広場
 小池広場

源流探検コース
 幻想的でステキでしょ！映画の世界に迷い込んだ気分(^^)
 探検しながら、じゃぶじゃぶ源流を進むのは、とっても気持ちいい！子どももおとなもみんな、楽しめますよ。
 友松 由実

「利用者からのお便り」掲示スペース
 皆さんからいただいたお便りを、館内の数か所に掲示しています。「楽しかった」「ありがとう」など嬉しい言葉がいっぱいで、読むと心がほっこり。元気をもらえる場所です。
 望月 こずえ

サービス棟地下通路
 平成3年の開所以来の主催事業の集合写真が飾ってあります。これを見れば妙高の歴史がわかると言っても過言ではありません(笑) 一度、ゆっくりご覧になってみてはいかがでしょうか。
 安田 大信

プレイホール棟1階の吹き抜け
 ほらっ。教会みたい！自然の家には、いくつかの吹き抜けがあります。光が差し込んだ吹き抜けは、教会の様に見えませんか？高い天井の下で元気なあいさつを交わせば、きっとよいことがありますよ。
 松木 光永

ロータリー
 開所20周年記念事業の一環として、平成23年9月に芝生の張り替え、花壇の設置、ツツジの植栽等の整備を行いました。自然の家に到着した際に、最初に目にする「妙高青少年自然の家」の入口です。
 湯浅 昭司

スキールーム
 夏期は室内に机・椅子を配置し、主にクラフト活動の場としてご利用いただけます。冬季はスキー用具、スコップ、スノーダンプ、ゼッケン等を貸出したりする場となります。様々な活動に合わせてご利用下さい。
 島田 一馬

玄関ホール
 早寝・早起き・朝ごはん運動のキャラクター「はやねちゃん」「よふかしおに」や、愛・地球博に登場した、雪を使った簡易型冷房ユニット「雪のモリゾー」君が、みなさんをお迎えます。
 國府 修治

ありの巣の森
 子供達は外遊びが大好き。我が家の子供もここで遊んだ事があって、帰宅するなりキラキラした目で嬉しそうにその時の様子を話してくれました。ここで活動したら、良い思い出が出来る事、間違い無し！
 清水 綾

つどいの広場
 利用団体の方々が一室に会し、朝のつどいをおこなう場所です。朝日を浴びながらラジオ体操をし、さわやかな一日が始まります。いっぱい体を動かして、おいしい朝ごはんをたべましょう。
 葎谷内 名緒

クラフトルーム
 ここは活動のための工作室で、机や椅子、活動用具、器具がある場所です。冬は衣替えして、利用者の方にお貸したそりやスノーシュー等、冬の活動用具の置き場になります。
 石黒 健也

正面玄関の階段
 自然の家での活動を終え、思い思いの表情で仲間と写真を撮る場所です。
 楽しかったこと、苦しくても乗り越えてがんばったこと、仲間と過ごしたことなど充実した思いを写真に収めています。
 室井 修一

小池
 メダカやオタマジャクシ、トンボのヤゴ！小池の中は生きものがいっぱい。ドキドキ、ワクワクのピオトープ！今日は、どんな生きものに出会えるかな？
 水澤 哲

※背景の地図は、国土院発行の数値地図50mメッシュ標高を使用しカシミール3Dにて書き出したものです。

いどもも、おとなも、

みんな「こくしょう」においで!

ここ、国立妙高青少年自然の家は、利用者のみなさんや、地元のみなさんからは、「こくしょう」と呼ばれています。私のようなオジサンは、おニャン子クラブで活躍された国生さゆりさんを思い出してしまいますが、国立妙高青少年自然の家を略して「こくしょう」と呼んでいただいています。

わたしたち「こくしょう」では、冬の雪が有名です。敷地内で、そり遊びやスキー、かまくらや雪灯ろう作りを楽しむことができます。冬以外でも、森林の中を冒険したり、炊事場を使って、仲間たちと野外炊事を楽しむことができます。

青少年自然の家だから、おとなは利用できないと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、どうぞご利用ください。宿泊研修などに、自然豊かな「こくしょう」は最適です。

この「こくしょう」では、みなさんに日常とは異なった体験の機会を提供します。一つは上に述べました豊かな自然体験です。もう一つは、日頃とは異なった生活体験です。朝6時30分には起床します。そして、7時からは朝のつどいを行い、ラジオ体操も全員参加です。ラジオ体操で眠気も吹っ飛び、元気いっぱいです。夕方になると、夕べのつどい、そして、夕食も入浴も時間を決めて行っていたとき、23時には消灯です。帰りの際には、寝具の整頓と清掃を行っていただきます。

このように聞かれると、面倒だなあと思われるかもしれませんが、でも、私たちは、いろいろな物に恵まれた今日であるからこそ、このような規律正しい生活を、この「こくしょう」で、特に若い世代に体験してもらうことが、大切と考えております。

国立というと、とっつきにくいイメージをお持ちの方もいるかもしれませんが、私たち妙高の「こくしょう」の職員は、みなさんを笑顔でお出迎えし、そして、お帰りのさいも笑顔でお送りいたします。ぜひ、気軽にご利用いただきたいと思えます。

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

所長 栗原 靖

感謝祭
おかげさまで20周年 子どもたちにもっと自然体験をさせたい
平成23年10月10日(月)開所20周年記念式典・大感謝祭開催

私たちは子どもたちの自然体験活動を応援しています。

国立妙高青少年自然の家では、平成23年度に下記の方々からご寄付をいただきました。(五十音順) なお、ご寄付をいただいた場合は、サービス棟玄関ホールやホームページにて報告しております。

■平成23年度 協賛企業・個人(敬称略)

(有)アイビーオート、家'Sハセガワ(株)、伊那美装(株)、大塚製薬(株)長岡出張所、小山(株)新潟営業所、頸南バス(株)、国際自然環境アウトドア専門学校、新星建機工業(株)、(株)スワローズキー、新潟みらい建設(株)、(株)浜田材木店、三国コカ・コーラボトリング(株)上越支店、(株)渡辺リネン



最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

Open the Door! Vol.6 平成 24 年 3 月発行

Open the Door! Vol.6

子どもたちにもっと

自然体験をさせたい。

青少年自然の家は豊かな自然で満ち溢れています。

一歩踏み出すと、そこは驚きと感動の宝庫です。

四季折々に様々な動植物と出会い、多くの感動を得ることができます。

そして、この感動は「本来動植物が生育する環境の中で出会うからこそ」と言われています。

自然の恵みとか神秘に触れてワクワク・ドキドキしたことは、心に浸透します。きつと生涯残る記憶に蓄積されていくことでしょう。

でも、森に囲まれた大自然の中での活動です。冒険心とともに不安も伴います。プログラムの大半は「協力」と「支え合い」を必要とします。当然、友達との葛藤の場面もあるかもしれません。

そうであるからこそ、自然とのふれ合いのみならず、深い人間関係が培われるのです。

自らのことは自ら行う生活習慣も養われ、学校や地域社会では、なかなか経験できない体を通じた学びの場がここにはあります。

ぜひ、新しい自分と出会ってみませんか。

